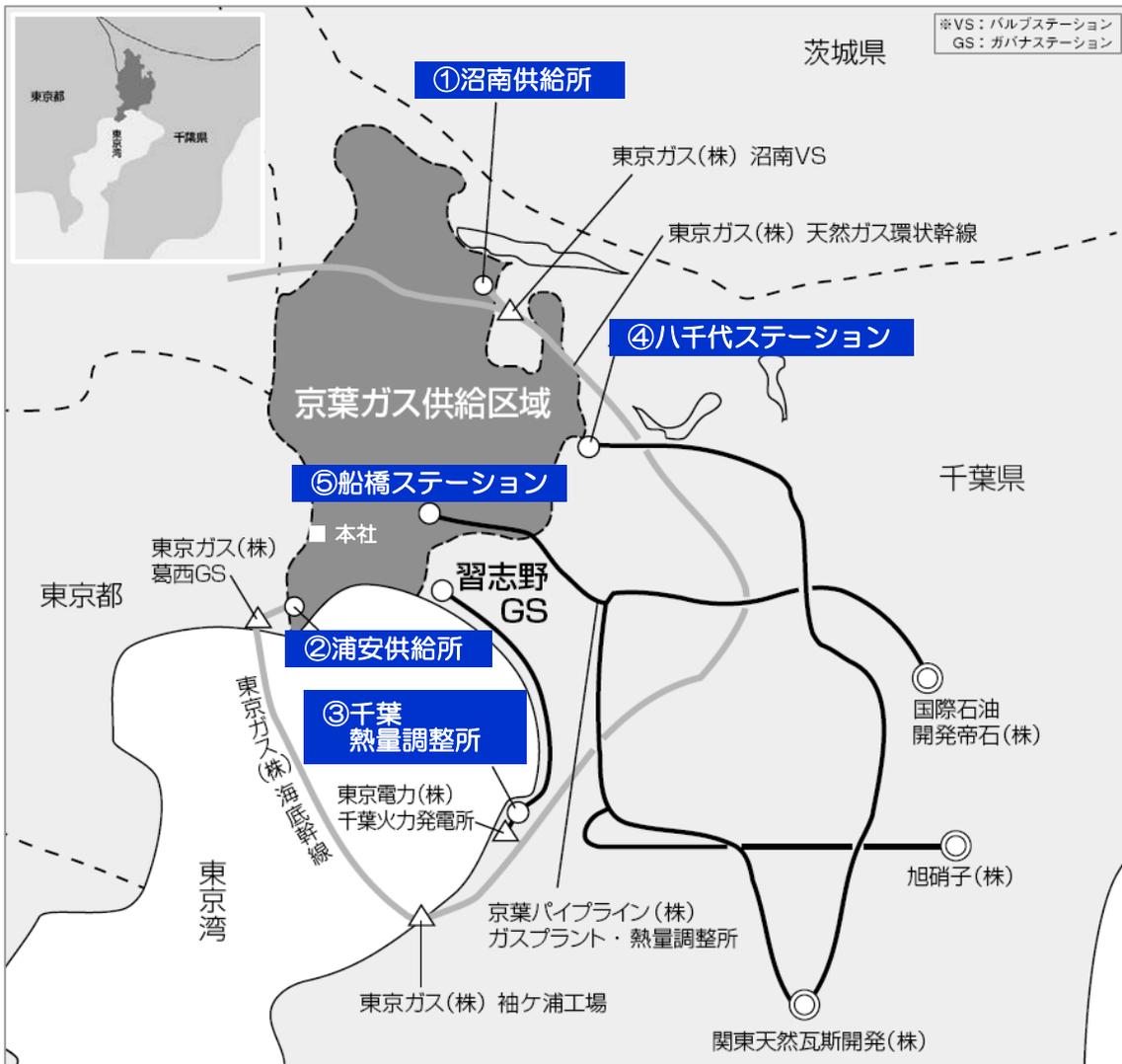


導管インフラ整備と中立性確保について

京葉ガス株式会社

平成26年11月13日

【供給区域・原料調達】



【導管網の概要 第15回小委員会資料】

高圧： 21km
 中圧： 691km
 低圧： 5,480km

合計：6,192km

【導管の特性】

● 高圧本支管

LNG系原料の輸送のために整備した導管で、原料ソースの多様化による供給安定性の向上を担う役割

● 中圧・低圧本支管

当社導管の99%を占めるもので、お客さまの需要に応じて整備した導管で都市ガスの配給を担う役割

【原料の種類】

<LNG系天然ガス>

- 東京ガス(株)から13Aガスを受入
 (①沼南供給所および②浦安供給所)
- 東京電力(株)から原料ガスを受入
 (③千葉熱量調整所)

<千葉県産天然ガス>

- 関東天然瓦斯開発(株)、国際石油開発帝石(株)、旭硝子(株)から13Aガスを受入
 (④八千代ステーションおよび⑤船橋ステーション)

【当社事業のあり方に対する発言】

お客さま視点での当社の事業のあり方

「ガスを安全に安価に安定供給すること」でお客さまにご提供する価値を継続的に高めていくことが、制度改革に拘わらず当社の事業に普遍的に求められるあり方と考える。

ガス事業制度は「ガスを安全に安価に安定供給すること」が達成されるような制度とするために、「保安確保」、「安定供給」、「価格低廉化」の3要素をバランス良く考慮することが必要と思料されます。

【当社発言 供給インフラの整備促進について】

供給インフラの整備促進についてですが、ガス供給の安定性を高めるうえで、広域パイプラインなどのインフラ整備の意義は高いと考えております。また、ガス料金の過半を占める「原料費」の低廉化は、上流事業に関与していないガス事業者では限界があり、原料の多様化を図ることが必要と思われれます。

「価格の低廉化」という視点からも、広域インフラをどのように整備するかが重要になると考えております。

【当社発言 期待する点・留意すべき点】

1点目は、地震などの災害時の復旧体制についてです。先の東日本大震災の際に、当社浦安地区の液状化被害の復旧工事で、東京ガスから多大なご支援をいただきました。また、当社は浦安地区の復旧後に東北の復旧作業に従事させていただきました。こういったガス事業者間の広域的な協力体制は災害時に非常に有効なので、今後の議論の際もご配慮いただきますようお願いいたします。

2点目は、保安全般のことです。保安業務は都市ガス事業者の原点であり、ガス事故の防止に努力することは、制度改革にかかわらず必要になります。当社は、「これまで培った経験」・「これまで整備した業務プロセス」・「これまで育成した保安人財」などを活かして、今後も地域にお住いの皆さまの安全確保に全力を尽くします。つきましては、地域の都市ガス事業者が保安役割を担うことを明確化して、従業員が誇りを持って業務に取り組める制度となることを要望します。

観点	考慮すべき事項
保安確保	<ul style="list-style-type: none">●地震などの有事を含めて、ガス漏えいなどの保安情報は様々な部門から寄せられます。また、地震時のマイコンメーターの復旧対応などで一時的に多数のお問い合わせをいただくときには、社内の総力を結集して対応します。適切な中立性を確保するとともに、関係者の連携体制に配慮することが必要と考えます。
価格低廉化	<ul style="list-style-type: none">●価格低廉化にはガス料金の過半を占める原料費の低減の実効性が高いと考えます。そのためには、原料の多様化が必要であり、原料融通を可能とするインフラ整備と中立性の確保が重要と考えます。●都市ガス事業では、製造・供給・営業を一体的に運営している事業者が存在します。一人の従業員が複数の業務を実施していることから、過度の分離は非効率になる懸念があります。
安定供給	<ul style="list-style-type: none">●原料の多様化は供給安定性の向上にも資すると思料されますので、原料融通を可能とするインフラ整備と中立性の確保が重要と考えます。●当社の製造部門である千葉熱量調整所の業務は導管部門で実施しており、設備・人員の運用を一体化しています。